

# メキシコの夕べ

去る11月29日(金)に、外国語学部スペイン語学科では2024年度の文化ウィークのイベントとして「メキシコの夕べ」を開催しました。午前には丹波美佐子先生(神奈川大学)の少数民族のプレベチャ族の文化に関する講演、午後には小林貴徳先生(専修大学)の「死者の日」についての講演が行われたほか、昼休みにはメキシコ民衆音楽「マリアッチ」の生演奏が行われるなど、参加者にとってメキシコの民衆文化の豊かさを知る素晴らしい機会となりました。また一階のロビーに10日間にわたり展示された、学生有志チームが製作した「死者の日の祭壇」は、多くの方からの称賛をいただくことができました。以下に、有志チームのキャプテンを務めてくれた本学科四年の大野さんと松原さんの感想を紹介します。

大野 有里鶴(スペイン語学科・4年)

3年生の後期に、翌年の後期に「死者の日」のイベントが行われると聞き、ぜひ携わりたいと思い、今回、祭壇作りや司会進行などを担当させていただきました。祭壇作りでは、メンバー全員で試行錯誤を繰り返しながら祭壇を完成させました。祭壇に飾るアイテムの中には、特別な意味が込められているものもあります。例えばマリィーゴルドの花は強い香りを持っているため、祭壇に飾ると死者がこの世に迷わずに戻ってこれるようになると言われてます。こうした背景を知ること、死者の日は単なるお祭りではなく、家族の繋がりを象徴する大切な行事であることを理解しました。また準備の過程ではメンバー同士が積極的にアイデアを出し合いながら、和気あいあいとした雰囲気の中で、個性溢れる祭壇を作ることができました。実際に祭壇が完成した時は、自分たちの手で作りあげたことへの喜びと達成感を得ることができました。当日の司会進行では、明るく楽しい雰囲気を作ることが大切にし、元氣な挨拶からこのイベントを開始しました。マリィアッチの演奏により会場全体が一体感につつまれたこ



死者の日の祭壇

外国語学部  
スペイン語学科  
岩崎賢

とで、最後は良い形で終われたと感じています。大学の最終年にこのような大きなイベントに携わることができ、とてもいい思い出を作ることができました。この経験はいつまでも忘れることはないと思います。

松原くるみ（スペイン語学科・4年）

大学三年生の頃、来年度に「メキシコ夕べ」のイベントを行うという話を伺った時は、ぜひやってみたくてという気持ちになりました。私は、死者の日の祭壇作りと当日の司会進行を大野さんと一緒に務めさせていただきました。祭壇を作っていく過程では、仲間たちと共にサイズや祭壇イメージを考えたり、役割分担をして買い出しに行ったりと、まるで高校生の頃の文化祭準備のような、少し若返った気持ちでした（笑）。皆で作りに上げた祭壇は大学のエントランス付近に十日ほど飾っていたいただき、多くの学生がそこで足をとめ、褒めてくださったり写真を撮ったりしている様子を見て、やってよかったな、と心から嬉しく思いました。

イベント当日には、お二人の先生のプレベチャ族や「死者の日」についての貴重なお話を拝聴し、今まで知らなかったことを学ぶことができました。マリアッチの演奏では、メキシコ音楽特有の楽しい雰囲気味わうことができました。自分たちが学んできたスペイン語圏の国の代表的な行事に、このような形で携わることができてとても光栄に思います。大学四年生となり学校内で友達と会える機会も少なくなつた中で、最後に仲間と共に一つのイベントを作り上げられたことは、とても素敵な思い出になりました。貴重な機会をくださり、本当にありがとうございます！



マリアッチの演奏